

けみかわの宮

第 108 号

平成29年 5月 1日発行

下総之國 神祇三社 検見川神社々務所

〒262-0023

千葉県花見川区検見川町1-1

TEL 043 (273) 0001代

FAX 043 (273) 0002



夏越大祓式並大祓祈願祭 茅の輪くぐりのご案内

六月三十日(金)
午後三時 齋行

六月三十日(金)、午後三時より当神社において、夏越大祓式並に大祓祈願祭が斎行されます。

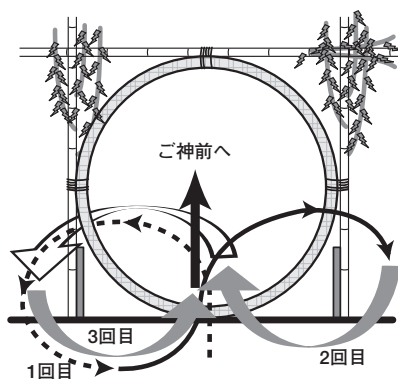
大祓は毎年六月と十二月の末日の年二回、全国の神社で行われる祓いの神事です。六月の大祓は「夏越大祓」と呼ばれ、十二月の師走大祓から半年の間、知らず知らずのうちに過ち犯してしまった罪穢を紙の人形に移し、これを祓いやると共に、切麻にて心身を祓い清めて、向う半年間を健やかに生き生きと過せるようお願いいたします。

とくに夏越大祓では「茅の輪くぐり」が行なわれます。これは、茅の輪を三回くぐることによって疫病や災難を免れるとの故事にならい、疫病の流行する夏の蒸し暑いこの時期にお祓いを行い人間本来の清浄な姿に立ち返り、心身の健康を祈る神事です。

当日は、東参道に臨時に設けられた祭場にて大祓式を執り行ったあと、大前に設置された茅の輪を参列者全員でくぐり、拝殿にて大祓祈願祭が斎行されます。

皆様どうぞご参列下さいますようお願い申し上げます。

◆茅の輪のくぐり方



くぐり方は、先ず左廻り、次に右廻り、そして最後にも一度左に廻ります。

◆夏越大祓の受付

大祓の受付は五月二十五日(木)より社務所にて随時受付致します。なお、ご来社できない方々におかれましても、ご参加できませんよう人形を同封しました案内状を郵送申し上げます。
氏名、生年月日を人形に直接ご記入頂き同封の袋にお納めの上、六月二十五日(日)迄に返信封筒にてお送り下さい。



社務所 〇四三(二七三)〇〇〇一

大祓の由来と大祓詞

大祓の由来

大祓は祓や禊に源を発し、神代以来の行事といえます。

日本神話のなかで須佐男命が犯した罪により天照大神が天岩戸にお隠れになり、国中が暗闇に包まれ皆が困っているところ、天児屋命の奏上する祝詞(大祓詞)により岩戸が開き、天照大神がお出ましになられたと伝わるのが大祓の起源といわれています。

大祓詞

大祓式で奏上される大祓詞は国民万人の祝詞で、神社のまつりにおける最も重い祝詞です。平安時代につくられた大和ことばによる延喜式祝詞が今も使われています。

その要旨は、罪や穢は起すまいとしても発生するものである(罪や穢は伝播するものである)、自ら犯した罪や汚穢でなくとも触穢となる)。しかし、

ちゃんとお祓いをすれば、祓戸大神等が運び去り消してくれる、というものです。

宣命体で書かれた大祓詞は莊重流麗な美しい言葉で構成されています。

その意識を添えます。

大祓詞の意識

高天原より天皇の祖神が天下り、やがて天皇を中心に生活が豊かに人々も榮えて行きますが、立派な生成発展を約束されている人々もさまざまな過ちや罪を犯すこととなります。これらを天津罪・国津罪と総称しますが、神々の教えによって祓の具を作り、祓の行事を行い天津祝詞の太祝詞事を宣れと教えています。

このように太祝詞事を宣るならば、天津神は必ず天の磐門を押し開き、国津神は高山、低山のイボリを力強い力でかきわけて聞いて下さるといいます。そのように聞いて下さるならば、

風が雲や霧を吹払うように、港につながれている大船も綱を解いてやると大海原に押出すように、するどい鎌をもって繁った木を打ちはらうように、神さまは残るくまなく祓い清めて下さるといいます。その神々とは、急流にいらつしやる瀬織津比売がまず大海原に運んでくれ、次に大海原にいらつしやる速開都比売がのみ込んでくれるといえます。そうすると気吹戸に坐す気吹主という神が根国・底国にふき払ってくれるといえます。さらに速佐須良比売という神が、罪穢をすつかりと流し去ってくれます。そうするとあらゆる罪穢が消えてしまいきますので、たくさんのお神々も聞き願って祓い清めに力を与えて下さいと祈り申し上げます。

(『大祓詞の解釈と信仰』神社新報社より)



四月・六月の 末社例祭

当神社には、御本殿の他に境内に全部で九社の末社が祀られています。そのうち四月・六月にかけて左記の五社の例祭が執り行われます。

以下、それぞれの神社の御祭神、例祭肅行日に沿って順にご紹介致します。

☆古峯神社（寄宮社右隣）

御祭神 日本武尊

御神徳 勝負事、開運招福

例祭日 四月九日



古峯神社（寄宮社右隣）

☆三峯神社（寄宮社左隣）

御祭神 三峯大神

御神徳 盗難除

例祭日 四月十九日

☆江戸湾金刀比羅宮（寄宮社一番奥）

御祭神 金刀比羅大神

御神徳 海上安全、漁業安全

例祭日 五月十九日

☆浅間神社（大前御神水の奥）

御祭神 浅間大神（木花開耶姫命）

御神徳 子育て、子守り

例祭日 五月二十九日

☆市神之神（表参道階段右下）

御祭神 夷神

御神徳 商売繁昌

例祭日 六月九日



寄 宮

境内整備事業五ヶ年計画

奉賛会準備委員会開催

当神社は県内随一の八方除総鎮護の神社です。その広大無辺の御神徳を敬仰される参拝者・崇敬者の方々が県内のみならず県外からも大勢お参りに来られます。

皆様方に清々しい雰囲気味わって頂けるよう神社としても日々境内整備を心掛けておりますが、さらに整備をすすめ、皆様方に親しまれる、威を増すような神社としていくよう、このたび、境内整備事業五ヶ年計画を策定致しました。

これまでも各年度毎に、大前手水舎改築、東参道手水舎造営、斎館建物買収、駐車場拡充等の整備を行って来ておりますが、本五ヶ年計画はこれをさらに押し進めていくものであります。事業計画の総費用として概算数億円を要しますが、この費用負担につきましては、神社会計による他、氏子・崇敬者の皆様方にも是非ご協賛賜りたいと存じております。

★境内整備計画の内容

東・西参道鳥居新設
東参道整備
西手水舎新設
授与所新設
神輿庫移築
境内北面整備
駐車場整備
境内地拡張

★奉賛会設置

本五ヶ年計画の推進組織として、別途奉賛会を設置致します。去る三月十九日、この設置準備委員会が神社客殿で開催され、臼井顧問、責任役員の皆様、町内会代表の方々他十七名の皆様にお集まり頂きました。

宮間宮司より本五ヶ年計画の趣旨説明が行われ、奉賛会立ち上げについて、会則案及びその内容（役員構成案、運営案等）に関する協議がもたれました。会則案が固まり次第具体的な活動が開始される予定です。

五月・六月祭典行事

五月

四日 緑樹祭

五日 端午祭・春季講社祭

十九日 末社金刀比羅神社例祭

二十七日 植樹祭

二十九日 末社浅間神社例祭

六月

九日 末社市神之社例祭

三十日 夏越大祓式

並大祓祈願祭

毎月一・十五日 月次祭
毎月二十九日 交通安全祈願祭

五節句の由来と意味

☆数の陰陽と祝事

数には単に数量を表わす言葉としてでなく伝統にもとづいた意味が込められています。

一、三、五、七、九と二、四、六、八の奇数と偶数、中国の陰陽思想では、偶数は陰とされ縁起の悪い数、反対に奇数は縁起のよい数とされています。

子供の成長を祝う七五三、結婚式の三々九度など身近な祝事でも奇数が使われていますが、中でも「一」は物事の一番はじめの数です。昔から「一」は最もすぐれたものを表わす数と考えられてきました。

一方、「節」とは古代中国の暦に定められた季節の変わり目といます。暦の中の奇数(陽)が重なる日は陰(偶数)になるとして、それを避けるためにその季節の旬の植物から生命力をもらい、邪気を祓う行事が行われました。

この中国の暦法が日本に伝わって農耕を祝う風習に結びつき、宮

中で邪気を払う節会という宴会が催されるようになりました。

江戸時代になるとこのうち五つを「五節句」として式日に定められました。一月一日は別格として代りに一月七日が取り入れられています。

以下五節句について簡単に紹介します。

一月七日(人日節句)

中国では元日から六日まででは獣の日であるため、七日を人日と呼んだ。人の健康を祝う日で春の七草がゆを食べる

三月三日(上巳節句)

桃の節句ともいい、本来は三月最初の巳の日に行う。罪やケガレを除くため息を吹きかけた人形を水に流したのが現在の雛人形の原型

五月五日(端午節句)

古代中国では薬草を採取する日で、毒気を祓うものとして菖

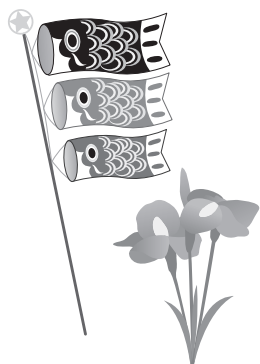
蒲を家や体につけて邪気を祓ったことに由来、中世日本では菖蒲が「尚武(武事を重んじること)」に通じることから武家の行事として盛んになり、男の子の節句となった

七月七日(七夕節句)

古代中国の牽牛・織女伝説が奈良時代に伝わり日本古来の棚織津女の物語と合わさって現在の七夕祭となった。

九月九日(重陽節句)

九という最大の陽数(奇数)が重なる大変めでたい日。中国では、菊は不老長寿に結びつくこととされ、菊の露を含んだ綿で顔を拭くと美人になり長寿にもなると信じられている。
(日本人の数のしきたりより)



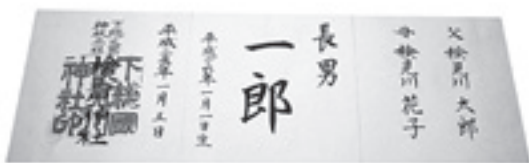
命名の御案内

当神社では御子様におふさわしい御名前を選名し、命名書の作成を承っております。

御子様がお生れになりましたら、二週間以内にお申し込み下さい(お電話でも結構です)。ご両親のご希望の候補名について専門神職が

陰陽・画数を判定し、選名順位をご返事致します。ご両親様のご判断されたお名前について、下記のような命名書を浄書致します。

初穂料 一万円





五月・六月の運勢

〔注意〕

各人の満年齢は、左記の数え年から、各人本人の誕生日前には二歳、誕生日以後には一歳を差し引けば得られる。アラビア数字は、ことしの誕生日以後の満年齢である。子・辰・申の年は閏年となる。

六 白 金 星	七 赤 金 星	八 白 土 星	九 紫 火 星	九 星
数え 96歳 1922年 大正11年生	数え 97歳 1921年 大正10年生	数え 98歳 1920年 大正 9 年生	数え 99歳 1919年 大正 8 年生	平成二十九年 各人数え年・生年・干支・九星見表 五月の運勢 〔乙巳五黄土星気性中宮の月〕 五月五日より六月五日迄
数え 87歳 1931年 昭和 6 年生	数え 88歳 1930年 昭和 5 年生	数え 89歳 1929年 昭和 4 年生	数え 90歳 1928年 昭和 3 年生	
数え 78歳 1940年 昭和15年生	数え 79歳 1939年 昭和14年生	数え 80歳 1938年 昭和13年生	数え 81歳 1937年 昭和12年生	
数え 69歳 1949年 昭和24年生	数え 70歳 1948年 昭和23年生	数え 71歳 1947年 昭和22年生	数え 72歳 1946年 昭和21年生	
数え 60歳 1958年 昭和33年生	数え 61歳 1957年 昭和32年生	数え 62歳 1956年 昭和31年生	数え 63歳 1955年 昭和30年生	
数え 51歳 1967年 昭和42年生	数え 52歳 1966年 昭和41年生	数え 53歳 1965年 昭和40年生	数え 54歳 1964年 昭和39年生	
数え 42歳 1976年 昭和51年生	数え 43歳 1975年 昭和50年生	数え 44歳 1974年 昭和49年生	数え 45歳 1973年 昭和48年生	
数え 33歳 1985年 昭和60年生	数え 34歳 1984年 昭和59年生	数え 35歳 1983年 昭和58年生	数え 36歳 1982年 昭和57年生	
数え 24歳 1994年 平成 6 年生	数え 25歳 1993年 平成 5 年生	数え 26歳 1992年 平成 4 年生	数え 27歳 1991年 平成 3 年生	
数え 15歳 2003年 平成15年生	数え 16歳 2002年 平成14年生	数え 17歳 2001年 平成13年生	数え 18歳 2000年 平成12年生	
数え 6歳 2012年 平成24年生	数え 7歳 2011年 平成23年生	数え 8歳 2010年 平成22年生	数え 9歳 2009年 平成21年生	
勢いにまかせて進むと空回りしやすいので、気をつけて。大いに進みたい気持ちはわかりますが、スピードは控えて安全運転を。万事に過ぎる傾向が強いので、八分目を目標に。	見通しも明るく良い運氣に恵まれそうです。新規事等も着実に上昇しそれなりの結果につながります。実りの多い時なので諸事粘り強く歩んで。但し、行動する時は急進ではなく邁進を。	蓄えが出来て余裕があるため、現状に満足せず、何かと試したくなりますがよく考えて。闇雲に動くことと今まで積んできた積善を失うことになるので注意。一步一步丁寧に歩んで。	明るい運氣ですが、一步間違えると表面のみで終わる恐れがあるので、よく考えて行動して下さい。何事も大きく掴もうとしないので着実に。多欲に過ぎれば良運は遠ざかるので注意。	六月の運勢 〔丙午四緑木星気性中宮の月〕 六月六日より七月五日迄
喜び事の重なる月となりそうです。職場でも人気・信用が高まり昇進・昇給に恵まれますが、ちょっとした態度や言葉遣いから思わぬことになるので、失礼のないように気をつけて。	現状に満足せず色々と着手したくなる月ですが、手当たり次第に手を出さないように。しっかり計画を立てる事が大事。現状維持が良策ですが、どうしてもという時は熟慮を重ねて。	ついたり離れたりの一進一退をくり返しやすいので、気をつけて下さい。前方に光明があり、見通しは良いので、諦めずじつくり構えて。焦ると見える物も見えなくなる恐れあり。	あまり良い運氣ではなく、物事がふさがり状態なので気をつけて。悩み事が発生した場合は、一人では無理なので周りの人に相談すること。何も考えずにその場のみの行動は禁物。	

一 白 水 星	二 黒 土 星	三 碧 木 星	四 緑 木 星	五 黄 土 星
数え 91歳 1927年 昭和 2 年生	数え 92歳 1926年 昭和元年生	数え 93歳 1925年 大正14年生	数え 94歳 1924年 大正13年生	数え 95歳 1923年 大正12年生
数え 82歳 1936年 昭和11年生	数え 83歳 1935年 昭和10年生	数え 84歳 1934年 昭和 9 年生	数え 85歳 1933年 昭和 8 年生	数え 86歳 1932年 昭和 7 年生
数え 73歳 1945年 昭和20年生	数え 74歳 1944年 昭和19年生	数え 75歳 1943年 昭和18年生	数え 76歳 1942年 昭和17年生	数え 77歳 1941年 昭和16年生
数え 64歳 1954年 昭和29年生	数え 65歳 1953年 昭和28年生	数え 66歳 1952年 昭和27年生	数え 67歳 1951年 昭和26年生	数え 68歳 1950年 昭和25年生
数え 55歳 1963年 昭和38年生	数え 56歳 1962年 昭和37年生	数え 57歳 1961年 昭和36年生	数え 58歳 1960年 昭和35年生	数え 59歳 1959年 昭和34年生
数え 46歳 1972年 昭和47年生	数え 47歳 1971年 昭和46年生	数え 48歳 1970年 昭和45年生	数え 49歳 1969年 昭和44年生	数え 50歳 1968年 昭和43年生
数え 37歳 1981年 昭和56年生	数え 38歳 1980年 昭和55年生	数え 39歳 1979年 昭和54年生	数え 40歳 1978年 昭和53年生	数え 41歳 1977年 昭和52年生
数え 28歳 1990年 平成 2 年生	数え 29歳 1989年 平成元年生	数え 30歳 1988年 昭和63年生	数え 31歳 1987年 昭和62年生	数え 32歳 1986年 昭和61年生
数え 19歳 1999年 平成11年生	数え 20歳 1998年 平成10年生	数え 21歳 1997年 平成 9 年生	数え 22歳 1996年 平成 8 年生	数え 23歳 1995年 平成 7 年生
数え 10歳 2008年 平成20年生	数え 11歳 2007年 平成19年生	数え 12歳 2006年 平成18年生	数え 13歳 2005年 平成17年生	数え 14歳 2004年 平成16年生
数え 1歳 2017年 平成29年生	数え 2歳 2016年 平成28年生	数え 3歳 2015年 平成27年生	数え 4歳 2014年 平成26年生	数え 5歳 2013年 平成25年生
順調な滑り出しをしたかなと思ったら止まったりと中々掴みづらい運氣なのでよく考えて行動して下さい。出来る限り計画を立ててから行動する事が良策。無闇に動くとかガをする。	月初めはさほど良い流れではありませんが、日を追うごとに上昇していくでしょう。漸進的な暗示がある月なので、急進は禁物。じっくり、ゆっくり確実な歩みを。急ぐとつまづく。	充実した運氣ですが本格的な運氣ではないので、行動する時は一步一步確かめながら歩んで下さい。注意散漫だとケガをすることがある。石橋を何度でも叩いて渡るように心掛けて。	好調・順調を絵にかいたような月となりそうです。物事も良く整い、事業等では契約事が成立するでしょう。但し足元が不安で基本に戻れの暗示があるので、再確認をしっかりと。	何かと周りのことが気にかかり行動したくなりますが、現状維持が良策。どうしても動く時は、よく準備して下さい。むやみやたらにうごくを取り返しをつかない事になるので注意。
物事が一気に上昇する運氣ではないので漸進を基本にして、諸事進む様に心掛けて下さい。イライラして基本を守らないと、取り返しのつかない事になるので注意を。急進は禁物。	物事の動きがよく気分爽快な月となりそうです。余裕をもてるためどうしても気が大きくなりそうなので気を引き締めて。少し位はと油断すると取り返しのつかない事になる恐れあり。	現状に満足せず色々と考えたり悩んだりする事が多くなりそうな月です。かなり落ち着かなくなるので、身体には注意。大いに発展する力はある時ですが、今は前進よりも退守を。	色々が集まってきて、人気が高まりそうです。雑用がかなり多くなりますが、本業を疎かにしない様に気をつけて。思いがけない問題が持ち込まれた時は、慌てず慎重な対応をすること。	充実した運氣ですが多少うぬぼれ状態になる恐れがあるので過信は禁物。物事が思った以上にスラスラと運んでしまう為ちよっと油断しやすいので注意。控え目な行動が吉意を増す。

みつめようふるさとの郷土芸能

千葉市郷土芸能公演会

三月十二日(日)、千葉市若葉文化ホールにおいて、第四十六回の千葉市郷土芸能公演会が開催されました。

千葉市郷土芸能保存協会及び千葉市文化連盟の主催による公演会です。検見川神社神楽囃子連を含む十一団体により、神楽・お囃子の演目が披露されました。

神楽では、老翁悪神祓舞・三番叟・神功皇后安産子育ての舞・五穀豊穡の舞など八座の神楽が、又、お囃子では、道化舞・祭囃子・五囃子などが発表されました。

笛・太鼓・鉦によるリズムカルな演奏に合わせた神楽舞、セリフはありませんが、きらびやかな衣裳をつけての舞は神話の世界を彷彿させるものです。又、頭に鉢巻、ハッピー姿の子供達が大人と共演する祭囃子、太鼓を上手に叩く様子は微笑ましく、観客の皆さま

んをお祭り気分になさせてくれます。



検見川神社神楽囃子連「千箭発号の舞」

いづれもすばらしい公演内容でした。題目毎に出演団体の紹介がありました。どの団体も、時代の変遷によりさまざまな事情で伝承の途絶や一時的な休会を余儀なくされています。しかし地域の人達や熱心な指導者のご尽力で復興・再興と今日まで受継られてきています。

神楽やお囃子は神事やお祭りに欠かせない伝統芸能です。各団体の皆さんの今後のさらなるご活躍を期待します。



祭はやし(浜野祭ばやし保存会)

参加団体 (出演順)

貝塚大六天神社囃子連
千葉神社神楽連
浜野祭ばやし保存会
八剣神社神楽連
都町諏訪神社囃子会
稲毛浅間神社神楽連
登渡神社登戸囃子連
畑町子安神社神楽連
作草部神社神楽連
検見川神社神楽囃子連
大宮神社下長囃子会他協会有志一同

写生会

打瀬小学校六年生



四月十四日(金)打瀬小学校六年生児童一三〇名の皆さんによる神社写生会が行われました。

境内の桜(枝垂桜)

